

第2回穴粟市議会（定例会）において一般質問は、7月4日・5日・6日の3日間にわたり、24人の議員が質問に立ちました。

問 国見の森公園事業の現状について

答 各事業計画どおり進行

松井 甫 議員

問 人と自然の共生や、山村と都市との交流等をテーマに、県民総参加による環境適合理型社会の形成の一環としての拠点づくりを目指しており、この実現にむけた取組みを進めようとしております。県としては地元説明会を開いたり、アイデアを募ったり、プログラム検討部会を立ち上げたりして、地元重視で事業が推進されています。そこで、各種工事の整備状況を伺います。遊歩道・森林学習軌道の整備状況、山麓施設である交流館や駅舎・駐車場の整備はどの程度進んでいるか。山上施設について、学習館、展望台、活動広場の整備状況はど

うなっていますか。また、倒木に起因した山覆崩壊地の復旧対策、二次災害防止策をどのように進めようとしておられるか伺う。

市長

現在の整備状況につきましては、学習館、交流館、展望台等の建設、森林学習環境の整備、遊歩道の整備、森林学習軌道の整備等々、平成18年夏のオープンにむけて各種工事が着々と進み、現時点では計画どおりの進捗状況と認識しています。



問 借金をへらせ

答 思いはおなじ

伊藤 一郎 議員

問

昭和59年「町の財政は危険、町債を減らし、小さな役所をめざせ」と当時の谷口町長に言った。当時の借金は約65億円で、昨年山崎町では約450億円でした。合併にて穴粟市の借金は800億円です。借金をへらすために、

昭和59年「町の財政は危険、町債を減らし、小さな役所をめざせ」と当時の谷口町長に言った。当時の借金は約65億円で、昨年山崎町では約450億円でした。合併にて穴粟市の借金は800億円です。

市長

葛沢く菅野トンネル、市の負担2億6千万円を県道塩田く上牧谷と振り替えは出来ないか。本庁舎建設を止めて、防災センターを本庁にしてはどうか。

葛沢く菅野トンネルについては、農業振興のため基幹農業施設へ農業生産物の搬出入の時間短縮・施設の有効利用・効率的な流通の確立のためのも

のです。事業主体は県で、事業の確定もなされ進んでいます。県道の塩田く上牧谷への道については、上牧谷地内で拡幅改良工事を行っています。山越えの道については進んでいないが、目的が違うので、振り替えは出来ない。本庁舎については、合併協議会で決まったことと、防災センターの目的と本庁舎機能内容が違うので出来ない。あなたと

思いはおなじで、次の世代に可能なかぎり荷物はふやさない。ただ将来を見、何を選択するのかが大切だ。

問 危機的風倒木の処理について

答 県に財政支援を強く要請

内海 利為 議員

問

ライフラインの住民生活に欠かせない箇所は順調な復旧を強く望むが、奥地の山林被災地の対応について

産業部長

災害とならない被災地については、基本的には造林事業の中で計画的に対応していくものであるが採択条件の合う物についてはみどり税の活用も視野に入れる。

問

現状の山林労務者で早期の復旧計画は可能か。

産業部長

被災林地の状況は極めて危険な状態であり専門的技術を要する、ゆえに森林組合や素

材業者と連携を取り実施することが望ましいと考え、山林労務の支援の必要性があれば、県森連を通じて要請する。

問

被災地の分収造林を解約するのは何故か

産業部長

被災林地を復旧した後、再契約が可能か県に協議したり、要請している。分収契約条項で災害被災時の解約条項があり、被災部分の一部解約を求める旨の問合せはあります。本件については契約期間の長短もあり難しい要因はありますが、充分検討し、県に協議・要望を行ってまいります。